東邦大学医療センター佐倉病院
公開講座

災害を乗り越えるために今出来ることを認定看護師と考える　Part 2

7階西病棟
摂食・嚥下障害看護
認定看護師
新井 沙耶香

小笠原 有希子

寺井 幸子

「摂食・嚥下障害看護」という分野はあまり聞きなれないかもしれません。摂食・嚥下とは、ただ物を食べ・飲み込むことだけを言うのではなく食物を食べるための動作全てを指します。食物を認識することから始まり、手で食具を使い口まで持っていき、噛んで、飲み込む。その一連の動作を指します。一連の中でも、嚥下（飲み込み）はたった 0.1 秒間の出来事です。この 0.1 秒間に様々な神経や筋肉が複雑に絡み合って嚥下動作が起こります。このたった 0.1 秒間の嚥下動作に対して知識・技術をもってサポートしていくことが摂食・嚥下障害看護認定看護師の役割です。同時に食事がいつでも安全に食べられるように、口腔内環境を整えるのも役割の一つです。

『災害』と『摂食・嚥下』は一見関係ないように思えるかもしれません。しかし過去の災害では、ライフラインの途絶により様々なものが不足し、救援物資が少ない中あまり多くの水分が取れないことによる窒息や口腔内環境の不備による誤嚥等が多数報告されています。

摂食・嚥下障害看護の分野では、災害時こそ「摂食・嚥下を安全にすること」を重視すべきと考えられています。災害時の救援物資は飲み物や食べ物が優先され、歯ブラシなどの口腔内環境を整えるための衛生材料が不足します。歯磨きを行うための物がないだけでなく、飲み水が優先される災害時は、歯磨きやうがいのために水を使うのがもったいないという考えになってしまいます。そのため歯磨きやうがいをしなくなり、口腔内環境が悪化してしまうことがあります。また避難生活によるストレスから免疫機能が低下し、そこへ歯磨きやうがいが行えない環境が加わり、肺炎発症の増加に繋がると考えられています。

最近では救援物資の中に歯磨きなどの衛生材料が早期に届くようになってきていますが、各自で防災グッズの中に歯ブラシ１本と液体歯磨きを準備しておくことをお薦めしています。生命が優先される防災グッズの中に、「歯ブラシなんて」と考えてしまうかも知れません。しかし、災害を免れた大切な命をさらなる二次災害から防ぐために、そのたったひとつの歯ブラシを準備することで防げることもあるのです。

災害は、いつどこで起こるか予測することは出来ません。しかし、過去の災害を振り返れば、摂食・嚥下についても今後に活かせることはたくさんあるのです。

『公開講座』に参加された皆さんやこの記事を読んでくださった方々が、少しでも防災時の『摂食・嚥下』について考える機会となれば幸いです。

公開講座スケジュール

2017.5.22 現在

2017年　佐倉病院公開講座のお知らせ

入場無料・申込不要・200席

ご参加お待ち致しております

ほぼ毎月、身近な疾患や症状をテーマにした公開講座を企画しております。多くの市民・医療関係者の皆様にご参加いただき、病気の予防や早期発見、地域医療の発展に役立てていただければと考えております。
当院東棟 7 階講堂で開催致しますが、9 月から開始時間が 13 時に変更となります。講演テーマなどの詳細につきましては、院内掲示およびホームページなどでご案内致します。お問い合わせや講演テーマのご要望がございましたら、総務課にご連絡下さい。

	7 July	8 August	9 September	10 October	11 November
開催予定日	22日 土曜日 14:00～16:00		30日 土曜日 13:00～15:00	28日 土曜日 13:00～15:00	25日 土曜日 13:00～15:30
講演予定テーマ	ロコモティブシンドロームと運動器不安定症 ～骨折予防・転倒予防・骨粗鬆症～	非開催	通院で出来る、がん治療の進歩	テーマ未定	＜地域で考えるケアと治療＞ 認知症とともに歩む “診断と治療”
担　当	整形外科 中川 晃一 他		化学療法室 岡住 慎一・清水 直美 他	循環器内科 野呂 眞人 他	神経内科・メンタルヘルスクリニック・脳神経外科・リハビリテーション部・ソーシャルワーカー・看護部 他

東邦大学医療センター佐倉病院
臨床病理症例検討会 開催予定
（場所：東棟７階・講堂）

第181回：7月24日（月）18時00分～
第182回：9月21日（木）18時30分～
第183回：10月16日（月）18時00分～

地域の医療機関の皆様にもご参加頂けます。
（問い合わせ先：教育支援室）

東邦大学 佐倉だより

Vol. 37　2017,7,1

東邦大学医療センター佐倉病院
発行 広報委員会・東邦佐倉会事務局
〒285-8741
千葉県佐倉市下志津564番地1
TEL 043-462-8811(代)
FAX 043-462-8820(代)
URL http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp

基本理念

医療の目的
質の高い医療を安全に提供する病院

病診(病)連携
地域に貢献する病院

教職員のあり方
人間愛を共有する病院

職場環境
楽しく明るくチャレンジする病院

生涯教育
良き医療人を育成する病院

患者の権利

質の高い公正な医療が受けられます
個人の尊厳が守られます
個人のプライバシーが保障されます
必要な医療情報の説明が受けられます
セカンドオピニオンが保障されています
医療行為について自己選択ができます

Topics News

1 Executive Message
臨床研修病院としての佐倉病院の機能 －NPO法人卒後臨床研修評価機構による「臨床研修評価」の受審に向けて－　副院長／教育・衛生担当　龍野 一郎
2 昇任　新任　紹介
桂川 修一　齋木 厚人　松澤 康雄　清水 一寛　大平 征宏　河村 毅
3 検査依頼のご案内 ～腹部エコー検査の開始～
臨床生理機能検査部長　髙田 伸夫
4 災害を乗り越えるために今出来ることを認定看護師と考えるPart 2
７階西病棟 摂食・嚥下障害看護認定看護師　新井 沙耶香
4 公開講座スケジュール　／　臨床病理症例検討会のご案内

Toho University
Sakura Medical Center

副院長／教育・衛生担当
龍 野 一 郎
Ichiro Tatsuno

Executive Message

臨床研修病院としての佐倉病院の機能

－ NPO法人卒後臨床研修評価機構による「臨床研修評価」の受審に向けて －

2004年4月から必修化された新医師臨床研修制度では医学部を卒業した医師は2年以上の総合的な臨床研修を受けなければならないと規定されており、全国どの臨床研修病院に応募しても良く、最終的には本人と病院の受け入れ希望が一致した研修病院で臨床研修を始めることになります。この研修医マッチング（組み合わせ決定）は医師臨床研修マッチング協議会のコンピュータを用いて厳正に決定されています。

近年、東邦大学医療センター佐倉病院で行われている看護師・薬剤師・臨床検査技師・放射線技師・管理栄養士など多職種と一体化した総合臨床研修に対する評価が高まり、今年度も総合型研修医19名の募集枠が2年連続してフルマッチしました。このフルマッチ数は千葉県内でも有数であり、様々な医学部出身の学生たちが佐倉病院にやってきています。これは佐倉病院の提供する高い専門医療だけでなく、温かい垣根の低い職種間を越えた職場環境も評価され、決め手になっているようです。

ただ、我々は現状に満足することなく、今後とも多くの医学生に我々の病院を研修病院として選んでもらうために、持続的な臨床研修プログラム及び研修環境の改善が必要です。このために病院では来年度NPO法人卒後臨床研修評価機構（JCEP）による臨床研修機能評価を受審する予定を立てています。JCEPでは臨床研修病院の施設の概要や研修設備の状況、臨床研修プログラムおよび活動に関するデータ、さらに予め第三者による評価基準などが評価されます。現在、受審に向かって院内に多職種によるワーキンググループを立ち上げ、準備を進めています。

これら佐倉病院の初期研修医は院内だけでなく、地域研修として佐倉市内外の医療機関で皆様にご指導をいただき、厚く御礼を申し上げます。彼らこそは今後の高齢化社会に向かう重要な戦力であり、是非温かい目で、時には厳しくご指導をいただければと思います。

昇任 新任 紹介

桂川修一
Shuichi Katsuragawa

メンタルヘルスクリニック
教授

昇任　2008年3月よりメンタルヘルスクリニックに赴任し、2016年4月より診療部長を拝命しております。以前は東邦大学医療センター大森病院、東京労災病院で診療をしており、身体疾患で入院されている患者さんに起きる精神科的問題、多くはせん妄、抑うつ、認知症といった病態への対応を行い、こちらとは別に勤労者医療としてメンタルヘルス対策に関わって参りました。当院は精神科病棟を持たない、いわゆる精神科無床の総合病院ですが、身体各科で入院されている患者さんの精神科診療、すなわちリエゾン活動を医師、精神保健福祉士によるチームで行っており、昨年度は 166 件の依頼がありました。また、精神科大規模デイケアでは、うつ病等で休職した勤労者の復職支援活動、すなわちリワークプログラムを医師、看護師、作業療法士、精神保健福祉士、臨床心理士といった多職種チームで行っております。昨年度は86名の利用者があり、復職達成率 72%でした。佐倉市は高齢者対策を積極的に推進しており、当科も認知症疾患医療センターとしてその一翼を担っております。肥満症治療や周産期メンタルヘルスといった、幅広いニーズにも応えて参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

齋木厚人
Atsuhito Saiki

糖尿病・内分泌・代謝内科
准教授

昇任　私は 1998年に当院に就職し、その後は留学を挟みつつもずっとこの佐倉の地で地域の先生方や諸先輩方の温かいご指導を賜り、そのおかげをもちましてこの 3 月に昇任となりました。身に余る光栄に存じております。当センターは県内屈指の糖尿病センターであり、また甲状腺超音波下穿刺吸引細胞診、副腎静脈サンプリングといった特殊診療にも力を入れています。さらに100kgを超えるような高度肥満患者に対して、内科･外科･精神科による画期的なチーム医療を行っており、全国から難治性肥満症患者がいらしています。私たちは、この地域の肥満による健康障害を撲滅することを切望しており、近隣の先生方にはこれまで以上にお力を頂戴できれば幸いでございます。最後になりますが、龍野教授以下医局員を代表いたしまして、当センターに対する日ごろのご指導やご協力に感謝を申し上げます。

松澤康雄
Yasuo Matsuzawa

呼吸器内科　講師

昇任　いつも、お世話になっております。呼吸器内科／救急部の松澤康雄です。この 2 月より講師に就任させていただきました。
社会の高齢化、医療の高度化により医療現場の負担は増える一方です。他方、病床数、医師数など医療リソースには限りがあります。とりわけ当地域～近隣地域における呼吸器内科の状況は深刻です。そうした中、先生方には病診連携、病病連携に多大なるご理解、ご協力をいただき感謝申し上げます。引き続き、大学病院として対応すべき症例にはできる限り、24時間体制で対応していく所存ですので、今後ともご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

清水一寛
Kazuhiro Shimizu

循環器内科　講師

昇任　2017 年 1 月 1 日付けで、内科学講座　循環器内科学分野　講師となりました清水一寛です。4月からは、臨床生理機能検査部　副部長を併任することとなりました。
私の臨床上の主な仕事は循環器内科診療ですが、心臓リハビリテーションと静脈血栓塞栓症の診療をライフワークとしております。研究は血管機能学に携わっております。現在高齢化が進む先進国の循環器領域の大きな問題点は、筋肉量の減少・血管機能の衰えに起因する脆弱性です。これに対するには、様々な職種の力を集結しなければなりません。病気を抱えた方が、佐倉病院で弱ったところを治し、元気なところはさらに磨きをかけ、より一層元気になって社会復帰されるお手伝いができれば幸いです。生理機能検査部の得意とする血管機能評価を道しるべに、循環器内科が得意とするチーム医療で地域に貢献していきたいと思いますので、今後とも宜しくお願いいたします。

大平征宏
Masahiro Ohira

糖尿病・内分泌・
代謝内科　講師

昇任　この度、内科学講座講師に昇任させて頂きました大平征宏と申します。東邦大学医療センター佐倉病院には東邦大学医学部卒業後の 1999 年 4 月から所属しており、途中 2 年間の鹿島労災病院での勤務の後 2003年10月から糖尿病・内分泌・代謝内科の一員として診療を行っています。鹿島労災病院時代に漢方薬治療を学んだことがあり、2011 年 1 月から漢方薬治療を当院で並行して行うようになりました。漢方薬治療の向上のため、2014 年4月から 2017 年3月まで千葉県山武市蓮沼の、あきば伝統医学クリニックで漢方診療の研修を行い、本年 4 月から東邦大学医療センター佐倉病院に復帰いたしました。今後は糖尿病・代謝分野のみならず、漢方治療も充実させ幅広い診療を行っていきたいと考えております。

河村　毅
Takeshi Kawamura

外科　講師

新任　この 4 月より、東邦大学医療センター佐倉病院に着任しました。当院では腎不全患者さんの外科的治療を担当します。佐倉病院では、2016 年に大橋靖准教授が着任し、腎臓内科が創設され、腎炎・ネフローゼや急性・慢性腎不全といった、腎疾患の診療を本格的にはじめさせていただいております。この領域は、外科的な診療が必要になる事が多い分野でもあります。慢性腎不全に対する透析療法で必要な内シャント造設術やその修復手術、透析用長期留置型カテーテル留置術、あるいは経皮的腎生検が難しい患者の開放腎生検といった、腎疾患診療の外科的側面を担当する外科医とご理解いただければと思います。これらの腎疾患の外科的治療に加え、腎移植をはじめとして、腹膜透析カテーテルの留置術などの各種手術を通じて、長年腎疾患の診療に携わってまいりました。今後佐倉病院において、腎疾患の総合的な診療体制を強化していくために、微力ながら頑張らせていただく所存です。何卒よろしくお願い致します。

検査依頼のご案内

～ 腹部エコー検査の開始 ～

臨床生理機能検査部長　髙田伸夫

2017 年 4 月より臨床生理機能検査部長に就任いたしました。前任者に引き続き地域の皆様にお役に立てる検査室づくりを目指してより一層努力して参りますので、今後ともよろしくご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

当院では地域の先生に当院の医療設備を有効にご利用いただき、患者さんの診断・治療にお役立ていただくために直接検査依頼をお受けしております。この度、地域の医療機関からのご要望にお応えし「腹部エコー検査」の直接予約を開始致しました。

腹部エコーは、肝胆膵等腹腔内実質臓器の炎症・結石・ポリープ・腫瘍などの診断・経過観察に役立ちますが、それ以外でも腹部血管の異常や、一部の消化管疾患の診断にも役立つようになってきております。さらに、この分野での技術は年々進化しており、今後さらに診断領域が広がることも期待されております。

特に強調しておきたいのは、腹部エコーは健康診断として広く普及するまでには至っておらず、リスクの高い慢性疾患症例における他疾患の発症（糖尿病患者の肝硬変･肝癌･膵癌等）を早期に発見するのが難しいことが挙げられます。

また、近年はメタボリックシンドロームによる様々な合併疾患の存在も指摘されております。これらの代謝性疾患・動脈硬化性疾患に対しては、当院で心エコー・頸動脈エコーの検査依頼をお受けしてきましたが、今後は脂肪肝・非アルコール性脂肪肝炎（NASH）チェックのために、腹部エコー検査のご利用もあわせてご検討いただければと考えております。さらに、無症候性の胆石・胆嚢ポリープなどのフォローアップなどにもご利用いただければ幸いです。

ご利用方法は他の検査依頼と同様にお電話での予約制となります。詳細につきましては「診療のご案内」P.11 をご参照いただくか、医療連携・患者支援センター　医療連携部門へお問い合わせください。

【直接予約可能な検査】　※生理機能検査は高校生以上からお受けしております。（中学生以下は小児科へご紹介ください）

生理機能検査

- 心臓エコー
- 下肢静脈エコー
- 下肢動脈エコー
- 頸動脈エコー
- 腹部エコー
- CAVI

放射線検査

- CT
- MRI
- 核医学

【お問い合わせ先】
医療連携・患者支援センター
医療連携部門
TEL：**043-462-8811**（代表）